



①

- ①この美術館は大淀尋常小学校跡地に建築された。既存樹を生かし、桜並木は当時のまま来館者を迎えてくれる
- ②ラウンジから段上のテラスを通して最上川を望む。テラスには楕山石を敷き詰めた
- ③企画展示室の屋根は集成材とLVL材によるトラス構造

写真提供：真下慶治記念美術館①
撮影：大越邦生②③

②

③

川島 茂
鹿兒島県立短期大学十川島鈴鹿建築計画（東京都）

真下慶治記念美術館 ができたときのこと

山形県を縦断する最上川。かの川の大蛇行を目の当たりにする高台に、真下慶治記念美術館はある。この美術館は高宮眞介氏の設計で、担当者として私は参加した。

この建築が魅力的であることはぜひ現地へ赴き体験していただきたいが、この建築ができたときのたくさんの出来事とその魅力を際立たせているように思う。

この計画は林野庁の補助事業で、一定量の木材を使用するとの使命があった。そこで、地元の材木業者が組合を組織し、市産材の調達を請け負ってくれた。また、集成材とLVL材のトラス構造の施工難度は高く、山形県に本社をおき木質構造部材を扱うシェルター社が施工者への指導に協力してくれた。

さらにアプローチやテラスに敷き詰めた淡い緑色で大谷石のような肌合いの床石は、過去に市で多く採掘された楕山石だが、既に採れずして久しいとの状況であった。そこで、当時の市長が、解体された市内の石蔵や民家の基礎などから取り置いたものを提供するよう市民に呼びかけ集められたものだ。また、中庭に敷かれた野石は新しく生まれるこの美

術館のために市民が集い最上川から採取したもの。

私が設計に携わり毎週のようにこの地に通い知ったのは、この美術館ができるためにどれほど多くの市民の皆さんが、ときに大きく、また小さいけれども凝縮されたたくさんの協力を尽くしてくれたかということ。明らかに、開館後の盛況は市民の情熱によるところだと思わずにいられない。

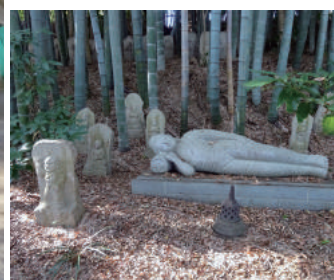
結果的にはその後、同市の複合文化施設や個人住宅の設計に携わり10年足らずの間、村山市と東京とを行き来した。その間にますます地方都市では「まちづくり」や「中心市街地活性化」が注目されるようになり、官民を問わず、今ではそれらを含め設計行為はあり得ないようにすらなっている。この美術館は私にとって、その先駆けとなる活動となった。そして、開館し15年の歳月を経過しようとしていてさえ、決して色あせない佇まいがこの美術館にはある。それはこの建築ができた時に莫大なエネルギーがこの地に蓄えられたからに違いない。

所在地：山形県村山市大字大淀 1084-1
設計：高宮眞介／計画・設計工房
担当：高宮眞介、川島茂、佐藤慎也
建築面積：707.00㎡
延床面積：560.42㎡
規模：平屋
構造：木造、RC造（一部S造）
竣工：2004年



③

①カスヤの森現代美術館正面
②竹林に点在する羅漢像
③美術館裏からカフェ（ラウンジ）を見る



① ②

小泉 厚
(株) アステック建築事務所 (神奈川県)

カスヤの森現代美術館 芸術家夫妻による私設美術館

横須賀市の閑静な住宅地、昭和30～40年代に宅地開発が行われた地域に残された里山の一角に、カスヤの森現代美術館があります。住宅地を通り抜ける狭い道の奥に佇む、住宅のような私設美術館です。正面から眺めるとヨーロッパの塔を彷彿とさせるデザインが目を引き、切妻の大屋根、ドイツ下見板張りの壁、そして、エントランスの斜めの袖壁が住宅のスケールで迎え入れてくれます。

この美術館は、渡航先のドイツで訪れた美術館やギャラリーに感銘を受けた芸術家のご夫妻により、現代アートの私設美術館として1994年に開館しました。

塔の部分は教会の鐘塔から発想し、信者が教会に集まってコミュニティを形成するように、人々が現代アートを媒介として気軽に立ち寄り、楽しめる空間を目指してつくられたそうです。

オブジェや小品の絵画などが展示されたエントランスは、展示会のイベント会場としても活用されています。本館には展示室が3つあり、現代美術家ヨーゼフ・ボイスの作品が常設展示されています。企画展は年5～6回

開催され、訪問日には「今、神話が語るもの」と題し、ミネケ・シッパー、山口由理子展が開催されていました。また、別館には宮脇愛子ら3人の現代芸術作品が常設展示として身近な距離で展示されています。

塔の下のカフェ（ラウンジ）は、吹き抜けからのハイサイドライト、ほどよく配置された窓から望む竹林、自由に閲覧できる美術関係書、何気なく飾られた作品等で構成され、くつろぎながら美術を鑑賞する場をお手伝いしています。

エントランスから裏に続く扉を開けると、きれいに手入れされた里山の竹林が目に留まります。この竹林には250体の羅漢像が点在しています。この羅漢像は、美術館が貴重な里山を守るために発足した「里山羅漢の会」に入会した方への個人的なモニュメントで、自身が里山の一部となる心の記念碑として位置付けられています。また、竹林の中には宮脇愛子の《うつろひ》がひっそりと展示されています。

地域とともに育む美術館、木漏れ日の中で風になびく竹林の音を聞きながら回想することで、心安らぐ美術鑑賞となるでしょう。

所在地：神奈川県横須賀市平作 7-12-13
開館時間：10～18時
(入館は閉館30分前まで)
休館日：毎週月・火・水曜日
展示替え期間、年末年始